

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2024年2月6日放送分・東三番丁／鉄砲横丁】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 「東番丁に行く！」シリーズの2回目。今回は、東二番丁の辻標～東三番丁の辻標へ、歴史散歩です。東三番丁の辻標は五橋にあるので、しばらくは東二番丁沿いを南下します。東側に、すぐ「仙台朝市」がある辺りをブラブラ。空襲で焼け野原になった仙台駅前、多くの露店が並んだ事が「仙台朝市」の発祥とされています。通称「青空市場」などと呼ばれたようです。
- 今や通りをはさんで2棟の、仙台で1位と2位の超高層ビルが建つ東二番丁。このうち仙台トラストタワーの側には、2005年まで東北学院中学と高校がありました。一方、向かいのSS30側には1980年まで宮城学院がありました。東二番丁をはさんだ周辺のエリアは、男女のミッションスクールが向かい合う文教地区だったのです。幕末には町奉行の役宅もあり、SS30の前に案内板が設置されています。街歩きの際、スルーしてはいけませんよ！

- では、番組42本目となる今回の辻標「東三番丁／鉄砲横丁」です。仙台中央警察署を東に折れ、五橋公園の南西角にあります。「東三番丁」は、奥州街道から東に3本目の侍の街。北は現在の県庁の手前まで、南は五橋公園の辺りだったようです。一方の「鉄砲横丁」は、元々は辻標のある五橋公園の辺りから東北大学片平キャンパスにまで達する東西の通りです。北目町との角に鉄砲鍛冶がいた事から、この名が付きました。明治以降、清水小路(現・愛宕上杉通)を東に突き抜けて、現在の連坊に近いあたりには「東華学校」という、これまたキリスト教系のミッションスクールがありました。同志社を建てた新島襄の創立になる学校でしたが、彼の早逝後に学校はわずか6年という短い歴史を閉じました。

